

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3月 26 日

事業所名 こどもの城ミュージー

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			児童の特性に配慮できるよう個室を多く設置し、児童個々の内言のあり様に合わせて各スペースができるよう設置している。教材、遊具、楽器、その他多く取り揃えてあります。改善は常に職員間で行い整理整頓、衛生面にも適宜毎回職員個々が気を配っている。遊具 場所や活動をする場所、待合室が分かれていて、気持ちを切り替えができるよう配置し、児童の気持ちに寄り添える環境に適しているのだと思う。	法令に遵守したスペースを確保しています。今後も様々な工夫をしながら維持します。
	2	職員の配置数は適切である	7			個別対応の為、担当職員が固定化されないようにしている。多く職員を配置し、戸外に出る際に一対一で対応出来たり、利用者一人一人と密に関わる時間を持っています。	現在、法令の基準を大幅に超えた 職員数を配置しております。その強みを活かした支援を工夫していきます。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7			重度の児童の対応も出来るだけ負担を軽く出来るよう、介護士職員から保護者への介助の聞き取り、アドバイス、可動域の介助の提案、動作法を通してその内容を職員間で共有している。情報は適宜共有できるように記録している。保護者の情報交換も常に行い家族支援を心がけている。空間や遊具を柵で仕切りを作って、目的が分かりやすくなるようにしています。また待合室と活動場所が分かれている。	住宅改装ができないので、介護士職員から保護者への介助の聞き取り、アドバイス、可動域の介助の提案、通してその内容を職員間で今まで通り共有していく。情報は適宜共有できるように記録している。保護者の情報交換も常に行いバリアフリーではない場所でも対応できるようになったと保護者から喜ばれている。今後も気持ちのバリアフリーで対応していきたい。限られたスペースの中で、より良い構造化が進められるよう検討していきます。
	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7			iPadを配置し、守秘義務を前提に日々の記録や写真動画を共有し気になるケースは相談員に情報をまとめ共有。保護者の聞き取り申し送りも相談員に集約して、待合室を利用し相談、その情報を職員間で申し送り、今後の目標や解決に繋げている。サービス提供についての振り返りを共に行っています。また、適宜ミーティングを行い 情報共有をし業務改善に繋げています。	日課活動や、現場支援に際しての振り返りなど職員間 の話し合いの機会を設けて、共通理解を深め業務改善 に取り組んでいきます。

業務改善	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		適宜、掲示して職員、来所者すべての人が回覧出来る様にしている。また、保護者からの聞き取りやアドバイスを尊重し、業務改善等に繋げている。	評価表の結果を受け、職員間でのミーティングの機会を設け保護者様の意向を共有し業務改善に取り組んでいます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		毎年紙媒体での掲示、ホームページにも掲示している。	保護者様向け評価表、事業所向け評価表の結果を踏まえ、自己評価表を作成しホームページに公開します。SNSを通して保護者の評価の改善報告を予定する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7		部署外の職員の来所を適宜行い、室内環境、業務の雰囲気、室内の様子、業務改善の聞き取りも行っている。また、相談員や保護者、他の来所者からのアドバイスや聞き取りも適宜環境整備に寄与している。	今年度の事業所自己評価、保護者様からの評価による改善を実施し、第三者による外部評価をしながら改善していきます。その内容は適宜SNSを通して保護者の評価の改善報告を予定する
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		外部研修、地域保育施設、こども発達支援センター等での見学、音楽療法の実施、職員相互の懇談実施、職員相互の懇談実施、オンライン研修に参画し研鑽を積んでいる。地域支援との勉強会へも参加して情報収集も心がけている。職員間の話し合いで気になる点に関しての研修をSNSやビデオ、書籍等々も活用しながら日々研鑽している。	今後も、外部研修に職員を派遣し、内部研修にも活かせるように努めます。今後はラウンジミーティングとして保護者との対談、座談会、ペアトレを行い保護者の日頃の思いや感じていることを全ての職員が関わることで、当事者との関わりや保護者にさらに寄り添えるようになるように意識向上になるよう実施していく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7		相談員を中心に職員間の日々の記録写真動画、活動内の状況報告相談、保護者への声かけや聞き取り相談、相談員との適宜やり取り、職員間での情報共有をしながら、3か月6か月見直しを定期的に行っている。相談員や活動に入る支援員が話し合いをしながら、こどもやその保護者、周りの環境などを共通理解しどのように活動を持っていか話し合いをしている。	利用者様と保護者様のニーズや課題を職員間で情報共有し、それを基に適切にアセスメントし児童発達支援計画を作成しています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		児童の特性に応じて、対応している。また新規の児童は、保護者からの情報を相談員が常日頃から情報を聞き取り、職員間で共有して支援に取り組んでいる。	アセスメントツールを通して、客観的に利用者様の状況を把握します。iPadを利用していつでも情報が共有できるようにしている
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		相談員からの情報を元に、日々児童に関わる職員以外でも適宜相談員事務担当者も児童指導員と言う立場から児童に多くの時間を係る様にしている。その内容を全ての職員間で共有できる様にもしている。レスキュー対応が常にあるのも職員間のチーム連携が図られているからだ認識している。	様々な日課を通して療育ができるよう職員全員で検討し、利用者様の意見も取り入れながら立案を行います。

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		<p>児童の特性に配慮できるよう個室を多く設置し、児童個々の内言のあり様に合わせて各スペースができるよう工夫して児童のやり苦しさの壁を取り除ける様に職員一同常に配慮し全て児童の居場所作りの環境設定を心がけている。教材、遊具、楽器、その他多く取り揃えてあります。計画の改善は常に職員間で行い整理整頓、衛生面にも適宜毎回職員個々が気を配っている。子どもの気持ちを考え一緒に遊びを考え提案したり、のびのびと活動できるよう配慮している。活動に入る職員を固定せず、職員皆で順に活動に入るようにしている。</p>	<p>利用者様の特性をベースに、主体的に楽しく取り組めるような日課の開発に努めます。職員間で意見を出しあい季節を感じてもらい取り組みを重視し、季節の行事を入れたり、おでかけミュージー等のイベントを開催したり散歩に出かけたり様々な児童の心の変化にも対応できるよう日課を取り入れています。</p>
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7		<p>計画表を遵守し、活動支援は今ここ！に感じることもたちの気持ちに寄り添った支援活動を長期休暇等でも変わらず実施している。</p>	<p>利用者様の特性をベースに、主体的に楽しく取り組めるような日課の開発に努めます。職員間で意見を出しあい季節を感じてもらい取り組みを重視し、季節の行事を入れたり、おでかけミュージー等のイベントを開催したり散歩に出かけたり様々な児童の心の変化にも対応できるよう日課を取り入れています。</p>
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7		<p>基本は児童の特性に配慮できるよう個室を多く設置し、児童個々の内言のあり様に合わせて各スペースができるよう工夫して児童のやり苦しさの壁を取り除ける様に職員一同常に配慮し、各スペースにいる数人の児童の居場所作りを損なわない様に個別支援を主として各部屋にいる児童との交流が少集団となり、共有支援となれる様配慮しながら実施している。教材、遊具、楽器、その他多く取り揃えてあります。計画の改善は常に職員間で行い整理整頓、衛生面にも適宜毎回職員個々が気を配っている。また、場所を変えておでかけミュージー（音楽療法実施）を小集団で実施する事で、親子の関わり、他児との関わり、集団での関わりを図る場所づくりとして寄与している。</p>	<p>利用者様の状態に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせていきます。(コロナ感染防止のため、現在は集団活動は行っていない。)、今現在保護者との確認事項を前提に時間帯に同席している児童との小集団遊びも実施。個別と少集団との関わりを観ることで全体の児童の様子を知ることできる。</p>
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		<p>児童の支援を固定しない為ランダムに担当決めて、iPadを通して情報の共有、留意点があれば適宜声かけ合いながら支援にあたっている。</p>	<p>その日のタイムキーパーの職員が、朝の会にて一日の活動の流れや日課の進め方などを周知して確認をしています。</p>
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		<p>日々の記録写真動画の保存は元より、口頭で職員間での活動内容も保護者との会話等も常に情報共有している。</p>	<p>当日の支援終了後は、職員の勤務体制や送迎の兼ね合いもあり振り返りの時間を設ける事が困難なので、翌日の朝の会やミーティングの際に振り返り、情報の共有をするよう努めている</p>

17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			日々の記録写真動画の保存は元より、口頭で職員間での活動内容も保護者との会話等も常に情報共有して改善も行っている。利用後に記録をし、次の参考にしている。	日々の支援記録を基に支援の検証を継続します。その留意点が何なのか、主訴は何なのか、見立ての立て方の研究を切磋琢磨しながら、職員間声を掛け合って児童に向き合っている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7			日々の記録写真動画の保存は元より、口頭で職員間での活動内容もモニタリングの内容、保護者との会話等も常に情報共有し改善している。	モニタリングを通して支援の達成度、ニーズの把握に努めます。保護者への説明や聞き取りも合わせて行っている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	7			放課後等デイサービス支援の提供すべく支援の『発達支援(本人支援及び移行支援)』『家庭支援』、『地域支援』で示す内容を元に当事業所のスタイルを設定しこどもの支援に必要な支援を行っている。	事業所全体で児童発達支援ガイドラインについて読み合わせ等を行い、理解を深めていけるように努めます。また保護者との話し合いの中で児童に合った支援内容になっているかどうか確認しながら支援に取り組んでいる。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			関りの多い相談員や管理者が会議に参加しています。	担当者会議に出席し、情報の共有が図れるよう体制を維持します。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7			保護者より学校行事に関する事などを前もって確認し対応している。	保護者が送迎を行っているため学校からの申し送りなどもその都度確認して対応している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	7			保護者や相談員や関連機関との連携を通して情報共有している。保護者や相談員や関連機関との連携を通して情報共有している。	こどもの居場所づくりの場所づくりに寄与し保護者と連携して、心のバリアフリーを大切に見守りたいと思う。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7			移行支援の援助は相談業務の一つとして位置付け、その時期前より保護者へのアドバイス並びに手続き、情報共有、関連機関への手配、連携、相談員との連携を行っている。必要な場合は学校訪問や保護者同伴も担っている。	随時、情報共有や相互理解が図れるよう、連絡会や担当者会議に参加できる体制を維持します。今後も外部研修に参加し、研修で学んだ事を周知して支援に活かし、職員全体の専門性を高められるよう努めます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7			移行支援の援助は相談業務の一つとして位置付け、その時期前より保護者へのアドバイス並びに手続き、情報共有、関連機関への手配、連携、相談員との連携を行っている。必要な場合は学校訪問や保護者同伴も担っている。	随時、情報共有や相互理解が図れるよう、連絡会や担当者会議に参加できる体制を維持します。今後も外部研修に参加し、研修で学んだ事を周知して支援に活かし、職員全体の専門性を高められるよう努めます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7			各中核都市の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、県の発達障害者支援センター等の専門機関と密に連携が取れているのが当事業所の特徴です。	戸外活動を多く取り入れたり、地域の児童館や公園等を積極的に活用する。また、子ども園や保育所等と、どのような交流を図れるのか検討していきます。
26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7			保育所等施設との交流自体はないが、戸外活動で利用客等の子どもとの関わる機会があるので良いと思う。おでかけミューを開催し、地域支援の位置付けで近隣の児童施設(園・学校)と連携し活動している(音楽療法を通した親子通園に地域の施設にも呼びかけ交流の機会を設けている)	学校や園の研修やイベントがある際は、随時参加できる体制を維持します。おでかけミューを開催し、地域支援の位置付けで近隣の児童施設(園・学校)と連携し活動している。	

27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7		地域連携は当事業所の柱でもあり、家族支援の観点から保護者の地域支援への仲介にも役立ててもらう様に配慮している。おでかけミュージーと題して地域連携を地域の他事業所の児童や職員、支援センターの児童や職員、相談員の参加を促した音楽療法ワークショップ開催、各子ども園、保育所、子育て支援センター、支援センター、支援学校や支援クラス対応した音楽療法ワークショップを開催したりしながら地域支援連携に努めている。機会がある時にさんかしている	SNSや掲示、保護者の送迎の際の申し送り等を通して、利用者様の様子を伝えたり、情報を共有、交換する体制を維持します。相談の内容によっては守秘義務を前提に外部の関係団体と協力し対応に当たっている。
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	7		児童の活動の様子を写真や動画に撮って保護者と情報共有をしたりしている。利用後、保護者とコミュニケーションを取り情報の共有をするよう心掛けている。	学校や園の研修やイベントがある際は、随時参加できる体制を維持します。おでかけミュージーを開催し、地域支援の位置付けで近隣の児童施設(園・学校)と連携し活動している。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7		待合室での共有する内容の相談があった場合など共有できる保護者へ声かけてワークをしたりしている。ラウンジミュージーと題してお茶会をしながら共有の話題を保護者中心に職員も立ち会いアドバイスを相互に話し合いをしている。	職員によるペアトレ研修への参加、職員への周知を行い学びを深めます。また、保護者に対して研修、講習の機会があれば随時お伝えしていきます。
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		見学体験の時に説明して、改善あるたびにSNS等を利用して保護者への周知徹底を行っている。掲示も声かけもその都度行っている。	契約の際には、保護者様に分かりやすく丁寧に説明するよう継続します。職員にも周知し関心を持って職務にあたる。
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		家族支援の観点から家族療法の心理的支援を全職員協力して配慮気遣いを怠らず、守秘義務も厳守しながら行っている。言葉掛けだけではなく、実際に見せて説明するなどしている。	言語聴覚士に相談しながら意思疎通が図れるツールの在り方、見通しの作業を行っている。当事業所のソーシャルスキル・アサーションスキルの内容を職員保護者に伝え理解しやすいように努める。
32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		特に今は設定はしていないが、SNSを通して情報共有、おでかけミュージーの開催で交流の場を作っている。今後は増やしていきたい。ラウンジミュージーという保護者同士で話す機会を作るイベントを企画中	おでかけミュージー、ラウンジミュージーを呼びかけて開催周知に努める。
33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7		地域連携支援を柱にも掲げていることもあり、保護者や児童の地域との連携仲介や支援も行っている。待合室に保護者が待機している時、声かけて保護者の悩みを引き出すお手伝いをしてアドバイスしたり地域支援に仲介したり行っている。	迅速に対応できる申し入れについては現在の体制を維持し、職員全体で検討が必要な相談については、その旨を伝え適切に対応します。

保護者への説明責任等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		職員間で共通理解を持ち、課題について話し合いを設けている。地域連携支援を柱にも掲げていることもあり、保護者や児童の地域との連携仲介や支援も行っている。待合室に保護者が待機している時、声かけて保護者の悩みを引き出すお手伝いをしてアドバイスしたり地域支援に仲介したり行っている。	現在フェイスブックページやLINE、ホームページにて発信しているが、活動風景は今後更新頻度をあげるよう努めます。また、情報を保護者の興味関心を図る上で、他機関とも協力し情報発信していきたい。
	35	個人情報に十分注意している	7		活動中知り得た個人の情報は相談員と情報共有し、写真動画等も含めて漏えいに職員一同常に注意を払っている。	内部研修を行い、適切な個人情報の取り扱いについて理解を深めます。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		家族支援の観点から家族療法の心理的支援を全職員協力して配慮気遣いを怠らず、守秘義務も厳守しながら行っている。言葉掛けだけでは無く、実際に見せて説明するなどしている。	言語聴覚士に相談しながら意思疎通が図れるツールの在り方、見通しの作業を行っている。当事業所のソーシャルスキル・アサーションスキルの内容を職員保護者に伝え理解しやすいように努める。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7		地域連携は当事業所の柱でもあり、家族支援の観点から保護者の地域支援への仲介にも役立てもらう様に配慮している。当事業所にて定期的に会場を設定し、おでかけミュージアムと題して地域連携を地域の他事業所の児童や職員、支援センターの児童や職員、相談員の参加を促した音楽療法ワークショップ開催、各こども園、保育所、子育て支援センター、支援センターや、支援学校や支援クラスに対応した音楽療法ワークショップを開催したりしながら地域支援連携に努めている。機会があれば適宜行う予定。	現在行っている事や地域支援を継続しながら、今後も地域に根差した運営方法について検討します。また、おでかけミュージアムを充実したものにし、支援活動に常掛けていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7		避難訓練はやっていないが、支援の中で防犯や危険性、避難経路の意味づけを声かけてやっているが、まだまだ安心安全の観点から組織図、避難経路図、避難場所分りやすく掲示、声かけを怠らない様に適宜周知していければと感じる。	訓練を見立てて支援の中で意識付けを声かけを重視する。また、その様子をホームページ等にて公開し、保護者様へ周知をしていく。その都度、事業所全体でマニュアルを確認していきます。避難訓練はできなくとも児童や保護者にも理解しやすい、毎回新たな避難経路図や避難場所を掲示する予定。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		周知しているが訓練としては行っていない。	避難訓練はできないが、児童や保護者にも理解しやすい、毎回新たな避難経路図や避難場所を掲示する予定。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		適宜、虐待防止の研修に参加して、研修動画などを利用して理解に努めている	内部研修を継続する。職員の学びや理解を深めていけるよう対応する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7		こどもの発散や自傷行為が生じる場合、生じた時には安全安心を優先して見守りをする。手を身体に出した場合、出さないといけない場合は保護者へ声かけて許可をうながしている。	身体拘束について事業所全体で理解を深め対応します。また、必要であれば保護者様に了解を得た上で児童 発達支援計画に記載します。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		保護者からの情報共有を中心に空気アレルギーにも配慮しアロマを通して環境づくりをするとともに日々の換気、消毒は怠らない様に徹底している。食事提供なし。	契約の際に保護者様からヒアリングを行い、アレルギーのある子は定期的に把握、確認を行う。また、今後医師 指示書が必要になるのかを検討をします。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		職員の目に付きやすい場所に置いていつでも閲覧できるようにしている	ヒヤリハット事例集を活用し、迅速に対応し安全に支援 が提供できるよう努めます。